

Back to おがわぎかい No.106

議会だよりを読んだ感想を議員がインタビュー



身近に感じるようになった

川村舞固さん (東小川3丁目) KAWAMURA Maiko

前号 (No.106) を読んだ率直な感想を

子供議会の記事では、小中学生の質問がとても具体的で鋭く、観光、生活、環境など幅広い内容にわたっていて、感心しました。

—ズバリ、議会・議会だよりについて—

議会だよりは以前に比べてデザインも見やすくなり、町民のインタビューや写真が多くなり、身近に感じるようになったと思います。



川村さんイチオシの記事は P.4~5 「子供一般質問」



Gikai's comment
106号の誌面づくりには特に時間をかけて編集しました。次回号もご期待ください。

町民の声、「聴きます×しなげます」

だから 小川が好き!

町への想いを寄稿していただくコーナー

ビバ 小川町

柳下晃美さん (旭町)

YAGISHITA Akimi



移住したら?のお誘いに「とんでもない。ここから会社に通うのは無理でしょ」と言っていた私が、意を決して移り住んだのが7年前。幸い駅近の、造り酒屋の煙突が丸見えで都会の2分の1の家賃で2倍の空間に居を構えることができました。都会で生まれ育ち、自然に憧れを抱いていたゆえ、隣村の飲めそうなほど美しい川で泳ぐ幸福感にアドレナリン爆発! 月1回の里山クラブで長老たちの生きる術と知恵を拝借、有機野菜に舌鼓を打ち、太陽の下、豊かな週末を過ごしています。池袋から1時間ちよい。こんな楽園、皆さん知っていました!?

(応募318紙中)

議会広報全国コンクール 全国第7位 優良賞受賞!

1年に1度、全国の町村を対象とした議会広報の全国コンクールがあり、小川町議会では毎年挑戦しています。編集委員会では、毎号熱い議論が交わされ、その結果としてある程度の評価をいただける紙面づくりができてきたのではないかと思います。めざすは「1人でも多くの町民の皆さんに読んでいただける広報づくり」です。



受賞号はこちらから読めます

次の定例会は 6月6日(火) 午前10時開会

※日程は変更になる場合があります。詳しくは小川町ホームページへ



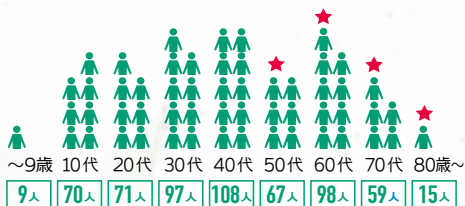
議員の

議員がインタビューした町民皆さんの数 ※No.80~以降の合計人数

聴く×つなぐ

※★印は 今号取材

594人



●今号の表紙●

豊かな感性の育成

特色ある保育で毎日、泥んこになったり、自然と触れ合ったりと元気に遊ぶ園児達。そんな中で、子供達の自主性や豊かな感性を育てています。

編集後記 今号の編集会議は、統一地方選挙前半が繰り広げられる中で進められた。女性議員の当選者数は全国で316人、埼玉県では15人とともに過去最多であった。議会広報でも、もっともっと女性や生活者の視点を大切にして編集に努めたい。(田中)

発行責任者：小川町議会議長 山口勝士
編集：議会広報発行特別委員会
委員長 高橋功人 副委員長 田中照子
委員 高瀬 勉・笹本孝幸・五十嵐康博 稲村壤治



高齢者や視覚の弱い方にも配慮したUD (ユニバーサルデザイン) フォントを使用しています